

新・東の風

令和6年度
3月号

本当に時間が経つのは早いもので、卒業式まで2週間を切りました。そして令和6年度もあと1か月で終わります。R6年度3学期はR7年度0学期、各自が次のステップめざして活動してください。

先月紹介しました本校卒業生ラグビー部の丹羽雄丸君(神奈川桐蔭学園)と川端隆馬君(大阪桐蔭)が高校日本代表に選ばれ、サンスポネットニュース(2月23日)に取り上げられたので、紹介します。



奈良・天理親里ラグビー場(撮影・月僧正弥)(株式会社 産経デジタル)

3月のイングランド遠征を控え、奈良・天理市内で強化合宿中(21~25日)のラグビー高校日本代表は23日、昨季の関西大学Aリーグ優勝の天理大と35分×2本の練習試合を行った。指令塔のSOには巧みなゲームコントロールと正確なキックで今冬の全国高校大会で桐蔭学園(神奈川)を2連覇に導いた丹羽雄丸(たける、3年)が先発。23-31で敗れたが、攻撃の要としてテンポの良い攻撃を演出した。

大阪市出身で、小2からラグビーを始めた丹羽は中学卒業後、桐蔭学園に進学。だが、23年6月に眼底骨折、同11月には左前十字靱帯(じんたい)損傷など大けがが相次ぎ、復帰できたのは昨年6月。このため、年内の高校日本代表候補合宿に呼ばれることはなかったが、花園での活躍が認められ、今年1月の代表候補合宿を経て最終メンバーに選ばれた。

チームを率いる桑原立監督(名古屋西高)は「アタックが魅力に見えるが、ディフェンスもできる」と評価。「見る人がワクワクするラグビーするが、彼なりの理屈があり、それをチームに重ねて力を発揮してほしい」と攻撃のリーダーを任せるなど大きな期待を寄せる。この日は前半最初の25分間と後半最後の20分間に出場。

前半は大阪・東生野中の同級生のSH川端隆馬(大阪桐蔭3年)と中学時代以来のHB団を組み、後半はもう1人のSO小林祐貴(慶応高3年)と「ダブル指令塔」の形で攻撃を指揮。前半は相手のフィジカルの強さに食い込まれる場面が多く、6-24とリードされたが、強さにも慣れ始めた後半はボールをテンポよく動かし、逆に17-7と相手を上回った。だが、丹羽は「勝ちたかった。最初に押し込まれ、後半は少し修正できたが、切り切れなかったり、相手陣に入ってもカウンターでペースを取り戻された」と反省。「まだ一人一人の特徴をとらえ切れていないので、もっと話をしたり、プレーを見てチームメートの強みを引き出したい」と奮起を誓う。

今回の代表チームは敵地でのU19(19歳以下)イングランド代表戦(現地時間3月22日)を最終目標に掲げる。指令塔として「相手の時間とスペースを奪って戦いたい」とチームが目指すラグビースタイル『巧速』を体現し、強豪を撃破するつもりだ。(月僧正弥)

令和6年度東生野中学校の教育に関する生徒アンケートで、「将来の夢や目標を持っていますか」に対しての好意的反応が78.4%と全国平均より10%以上高くなっている。各自異なった夢ではあるが、獲得するために、この今(R7年度0学期)を大切にしましょう。